



「いのちの大切さ」や
「思いやり」を
学ぼう、伝えよう



かながわ「いのちの授業」 リーフレット

ともに生きる社会の担い手となる子どもたちに
「あたたかい心」や「いのちを大切にする心」を育むため
「いのちの授業」を学校から家庭・地域へ広げましょう

「いのちの授業」とは

学校や、家庭、地域では、あらゆる教育活動を通して子どもたちに、「いのち」のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さなどを実感してもらう、様々な「いのちの授業」を行っています。

様々な「いのちの授業」を通して、子どもたちは大切なことに気づき、考えを深めていきます。

学校 では (第13回「いのちの授業」大賞受賞作品より抜粋)

「わかり合おうとする一步」 中学2年生

特性を持つ人との関わりを通して、『いのち輝く』社会の実現について考えました。

誰かと違う特性をもつ人に対して偏見をもつのではなく、相手の立場や気持ちを想像し、理解しようとする「他者理解」が大切だと考えました。この「他者理解」の大切さを知ってもらうためにもまず、周りとは違う感じ方や考え方をする人などの「違い」＝悪いことではないということを理解してほしいです。

私は彼のように自分の気持ちをうまく伝えられずに怒ったりしてしまう人でも、周りが理解して安心して過ごせるような社会になることを願っています。

「あの日のいのち」 ろう学校高等部2年生

授業から、平和について考え、自分たちのできることにについて考えました。

国語の授業で原爆について勉強した。授業で原爆に関係した文章を読んでもそこには、原爆が落ちる直前に、人々が着ていた服の写りが載っていた。それは、少女たちが着ていた服の写りだった。とてもオシャレな服だった。

今、世界で起きていることは「対岸の火事」などではなく、日本に生きる私達にも、じわじわと危機が迫りつつあり、かつての戦争によって取り戻した「平和」をおびやかす出来事なのだ。

そうならないためにも、もう一度真剣に考えたい。それが私達若者の使命なのだから。

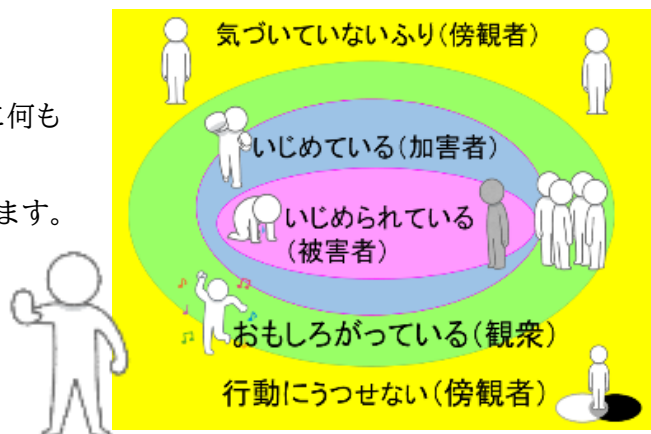
～いじめの「四層構造」～

傍観者は、いじめが起きていることを知っているのに何もしない人のことです。

被害者から見ると、いじめの支持者となることがあります。

「いのちの授業」 中学3年生

私は、いじめる側にも、いじめられる側にも絶対になりたくありません。でも、それだけでなくいじめを見たときに何もせずに見ている側にもなりたくないと思いました。



『いじめ』に関するアニメを視聴して、『いのち』の大切さについて、考えました。

「いのちの授業」を学校から家庭・地域へ広げましょう

- ♥ 「いのちの授業」は特別なものではありません。
- ♥ 子どもたちとの何気ないかかわりの中で、大人と子どもが、一緒に『いのち』に気づき、『いのち』を考えてみるのが大切です。

家庭での出来事から

「ぼくのたいせつなかぞく」 小学1年生

家族のネコが亡くなったエピソードから、『いのち』の大切さを実感しました。

いのちのことをはじめてわかった。たいせつなかぞくがしんでしまうのをはじめてけいけんした。だから2ひきのねこをたいせつにする。じぶんのこともたいせつにする。みんなたいせつにする。るーかすかぞくになってくれてありがとう。ずっとずっとかぞくだよ。きょうもぼくは、げんきだよ。

地域の行事に参加して

「しらなかった言葉」 小学2年生

地域の劇に参加したことから、戦争について調べ、『いのち』の重さについて考えました。

いみが分からないせんそう中の言葉は、はくぶつかんへ見にでかけてみました。はくぶつかんのガラスケースの中にしょういだんも竹やりもしょうしゅうれいじょうも国みんふくもありました。ふるびていましたが、ぜんぶ本ものです。

しらなかった言葉を学ぶうちに、しらなかったいのちのストーリーを学ぶ夏休みになりました。

わたしは、きえてしまったいのちのことを学んでいのちを大切にできる人になりたいと思いました。

「いのちの授業」の作文をお待ちしています

お子さまが、家庭や地域で感じた
「いのち」の大切さや体験を
作文にしてお寄せください。
(手書き、PC入力どちらでも構いません)



募集に関する情報は、こちらから



かながわ いのちの授業大賞

または



ともに生きる社会かながわ憲章

平成 28 年 7 月 26 日、県立障害者支援施設である津久井やまゆり園において、19 名の生命が奪われるという大変痛ましい事件が発生しました。このような事件が二度と繰り返されないよう、県と県議会は、「ともに生きる社会かながわ憲章」を制定しました。

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日

神奈川県

県では、「みんなってだれのこと？」をテーマに、「みんな」と「ともに生きる」とはどういうことかを考える絵本、「**ともいきコンセプトブック**」を作成し、県内小学校で「いのちの授業」などの教材にいただいています。

県ホームページから閲覧していただけますので、ご家庭や地域でぜひご活用ください。



詳しくはこちら



「視覚障がい者の長谷川先生のお話」 小学4年生

学校での講話を聴いて、『ともに生きる社会』について考えました。

私は、これから視覚障がい者の人のために、声をかけて助けてあげたいです。そして、信号が青信号なのにわたっていなかったら、

「今は青信号なので、わたっていいですよ。」

と言って助けてあげるなどして、視覚障がい者の人の力になりたいです。

第 13 回の ともいき賞受賞作品です。

かながわ いのちの授業

検索

県教育委員会のホームページで

「いのちの授業」のハンドブックや実践事

例、児童・生徒の作文などを

見ることができます！



問い合わせ先
神奈川県教育委員会 教育局
支援部 子ども教育支援課

〒231-8588 横浜市中区日本大通 1 東庁舎 9 階
電話：045-210-8292 FAX:045-210-8937